

# 津野町道路附属物長寿命化修繕計画

## 1. 津野町の道路附属物の現状と課題

津野町では、計 49 箇所（道路標識 32 箇所、道路照明 17 箇所）の道路附属物を管理しています。数十年前に設置された古い道路附属物などがあり、今後、経年とともに道路附属物の老朽化が進行し、これまでのような事後保全的管理（構造物の損傷が顕在化してから補修対策を実施）では、対策が一定期間に集中し維持管理予算を集中投資しなければならない可能性が考えられます。このため、今後、安全性を確保しつつ合理的に道路附属物の保守管理を継続的に取り組むための維持計画の策定が求められています。

## 2. 津野町の道路附属物維持管理計画の策定に向けて

津野町では、道路附属物維持管理計画の策定に向けて、以下のような方針で臨みます。

### 2.1 道路附属物維持管理計画の対象

津野町が管理する道路標識 32 箇所、道路照明 17 箇所を対象とします。

### 2.2 道路附属物の定期点検による健全性の診断

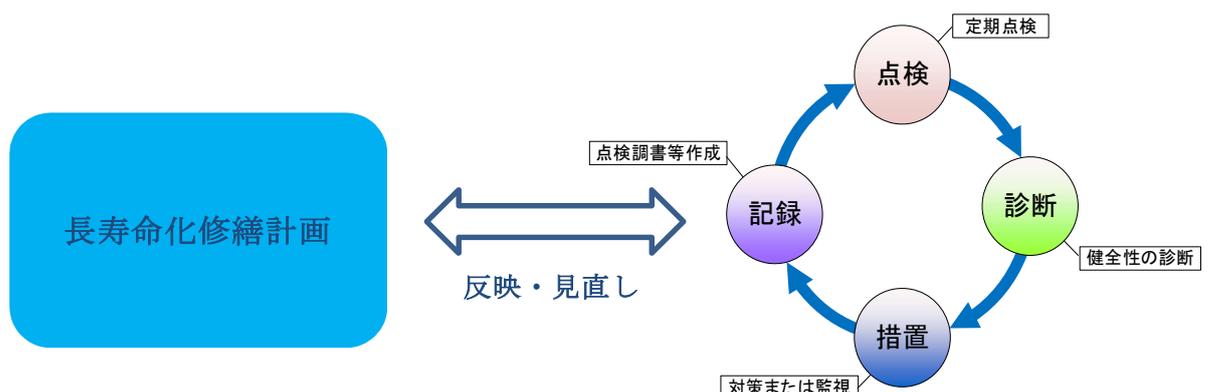
津野町では、【総点検実施要領（案）】（国土交通省 道路局 平成 25 年 2 月）、【小規模附属物点検要領】（国土交通省 道路局 平成 29 年 3 月）、【門型標識等定期点検要領】（国土交通省 道路局 平成 26 年 6 月）を参考に、定期点検を継続して実施し、道路附属物に発生している変状の状況を把握し、変状毎に表-1 に示す判定区分で健全性の診断を行います。

表-1 道路附属物の変状区分

評価	判定
I	健全
II	経過観察
III	早期処置
IV	緊急措置

### 2.3 道路附属物維持管理に係るコストの平準化

道路附属物維持管理に係るコスト平準化のため、従来の事後保全的管理から予防保全的管理への転換を図ります。定期点検結果に基づいて、修繕計画の策定、または見直しを行い、修繕計画に基づいた修繕工事を実施、事後評価を行い、次回点検に反映させます。このサイクルを継続的にを行い、維持管理予算が短期間に集中することを避け、計画的な維持管理を進めていきます。



## 2.4 道路附属物点検について

津野町の道路附属物における直近の点検結果、及び次回点検予定年度を表-2 に示します。

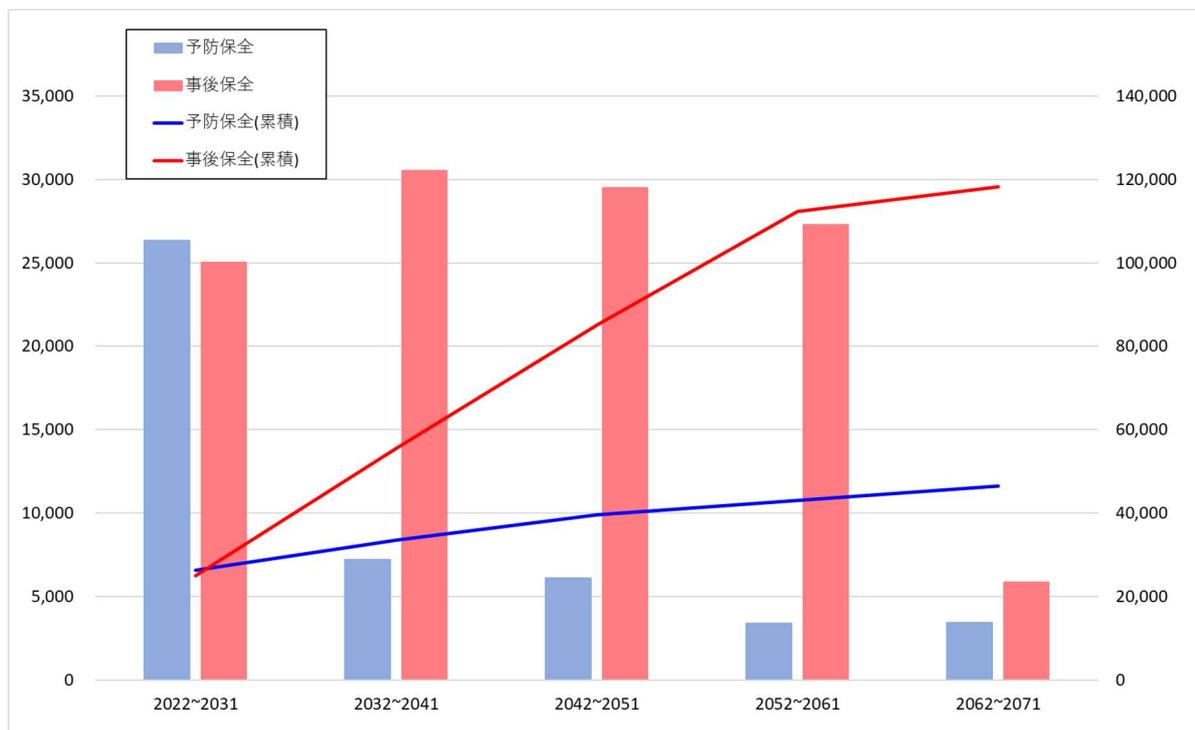
表-2 道路附属物点検結果・予定

道路標識					
	管理番号	路線名	最終点検年度	判定	次回点検年度
1	5102-M-1	神の木前線	H30	I	R5
2	5115-M-1	八幡線	H30	I	R5
3	5117-M-1	上法線	H30	II	R5
4	5201-M-1	姫野々線	H30	I	R5
5	5232-M-1	葉山ヘリポート線	H30	II	R5
6	5331-M-1	川ノ内床鍋線	R1	II	R6
7	5331-M-2	川ノ内床鍋線	R1	I	R6
8	5331-M-3	川ノ内床鍋線	R1	II	R6
9	5331-M-4	川ノ内床鍋線	R1	I	R6
10	5331-M-5	川ノ内床鍋線	R1	III	R6
11	5331-M-6	川ノ内床鍋線	R1	I	R6
12	5331-M-7	川ノ内床鍋線	R1	I	R6
13	5331-M-8	川ノ内床鍋線	R1	I	R6
14	5526-M-1	下石指線	R1	II	R6
15	5526-M-2	下石指線	R1	II	R6
16	5531-M-1	日浦大谷線	R1	II	R6
17	5540-M-1	大谷大川線	R1	II	R6
18	6702-M-1	隠地線	R1	II	R6
19	6746-M-1	西倉川桑ヶ市線	R1	I	R6
20	6802-M-1	烏出川倉川線	R1	II	R6
21	6802-M-2	烏出川倉川線	R1	II	R6
22	6802-M-3	烏出川倉川線	R1	III	R6
23	6802-M-4	烏出川倉川線	R1	III	R6
24	6923-M-1	長谷線	R3	II	R8
25	6923-M-2	長谷線	R3	II	R8
26	6949-M-1	枝ヶ谷ダバ線	R3	I	R8
27	7031-M-1	宮谷木桑線	R3	III	R8
28	7044-M-1	北川宮谷線	R3	II	R8
29	7044-M-2	北川宮谷線	R3	II	R8
30	7044-M-3	北川宮谷線	R3	II	R8
31	5537-M-1	アゾ川線	R3	II	R8
32	5537-M-2	アゾ川線	R3	IV	R8

道路照明					
	管理番号	路線名	最終点検年度	判定	次回点検年度
1	5201-L-1	姫野々線	H30	II	R5
2	5201-L-2	姫野々線	H30	II	R5
3	5201-L-3	姫野々線	H30	II	R5
4	6733-L-1	船戸壁地線	R1	III	R6
5	6833-L-1	昭和線	R1	II	R6
6	6833-L-2	昭和線	R1	II	R6
7	5625-L-1	大西線(1)	R3	II	R8
8	6737-L-1	朝見谷線	R3	IV	R8
9	6737-L-2	朝見谷線	R3	IV	R8
10	6737-L-3	朝見谷線	R3	IV	R8
11	6737-L-4	朝見谷線	R3	IV	R8
12	6737-L-5	朝見谷線	R3	IV	R8
13	6737-L-6	朝見谷線	R3	IV	R8
14	6737-L-7	朝見谷線	R3	IV	R8
15	6903-L-1	大西線(2)	R3	I	R8
16	6931-L-1	郷内屋敷線	R3	II	R8
17	7050-L-1	木桑高野線	R3	IV	R8

## 2.5 対策費用

計画期間内に発生する概算費用の推計結果を下記に示します。ここで年間予算水準額を設定した上で予算の平準化を図り、各年の対策費用の概算を設定しました。



## 2.6 新技術の活用方針

定期点検及び修繕の実施にあたっては、新技術情報提供システム（NETIS）や点検支援技術性能カタログ（案）により、従来点検及び工法と新技術等を含めた比較検討を実施します。検討の結果、新技術の活用により、事業の効率化や費用縮減等が図れる場合には新技術を積極的に活用します。

## 2.7 費用の縮減に関する具体的な方針

定期点検においては新技術の積極的な活用による業務の効率化及びコスト縮減、修繕においては新工法や新材料等による品質の向上を図り、今後 10 年間で 1 件の新技術活用を行い、約 50 万円程度の維持管理コスト縮減を目指します。